

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 29 年度農業農村工学会賞の決定について	84
○平成 30 年度農業農村工学会賞候補の推薦について 締切 10 月 31 日	84
○第 41 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 1 報） 8 月 15～17 日開催	85
○農業用ダム研究会シンポジウムのプログラムについて 6 月 23 日開催	85
○「2050 年農業・農村の姿」ポスターの公募について（再） 公募締切 7 月 3 日	86
○平成 29 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加者募集（再） 申込締切 6 月 14 日	86
○サマーセミナー 2017 参加者募集！（再） 8 月 31 日～9 月 2 日開催	87
○平成 29 年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再） 申請締切 6 月 30 日	87
○平成 29 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 15 日	88
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	88
○学生会員入会時の特典について	89
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集！！	89
○平成 30 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	90
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	90
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	92
○第 74 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報） 発表申込締切 6 月 30 日	93
○第 72 回中国四国支部講演会ならびに第 41 回地方講習会の開催について（第 2 報） 講演原稿締切 9 月 8 日	94
農業農村工学会論文集内容紹介	95
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	96
受入れ図書	97
文献目録	98
学会記事	100

第 85 巻第 7 号予定

展望：関東地区の農業農村整備事業の現状と今後の展望：江間敏介

小特集：関東の農業農村整備

- ▷報文：神奈川県における農業農村整備：吉田 寿ほか
- ▷報文：横浜市の都市農業：江成卓史
- ▷報文：丹沢大山の自然再生・地域再生：糸長浩司ほか
- ▷報文：関東甲信地方の風食の特徴とその抑制対策：鈴木 純ほか
- ▷報文：千葉県の水利施設と農地整備：今井忠延

技術リポート

- 北海道支部：草地整備事業における航空レーザ測量の活用事例：矢橋潤一郎ほか
- 関東支部：情報通信技術を活用した受益地調査の省力化：藤吉智裕
- 京都支部：ALW 形ダクティル管を用いた現地計測：山本敦志ほか
- 中国四国支部：急傾斜地等における主要構造物の基礎地盤対策：今井 研ほか
- 九州沖縄支部：熊本地震におけるパイプライン施設の復旧と今後の課題：安永昌史

小講座：生産緑地制度：唐崎卓也

私のビジョン：大学での研究・教育と大会開催：長坂貞郎

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 29 年 6 月 14 日	農業農村工学会	農業農村工学実用新技術セミナー Ⓟ	—	東京都	85 巻 5 号
平成 29 年 6 月 23 日	農業農村工学会	農業用ダム研究会シンポジウム Ⓟ	第 7 期（平成 25～28 年度）研究成果	東京都	85 巻 6 号
平成 29 年 6 月 24 日	農業農村工学会 ほか	平成 29 年度 JABEE 農学系分野審査講習会 Ⓟ	—	東京都	85 巻 5 号
平成 29 年 8 月 15～17 日	農業用水展示実行 委員会	第 41 回「水の週間」水のワークショップ・展示会	—	東京都	85 巻 6 号
平成 29 年 8 月 29 日～9 月 1 日	大会運営委員会	平成 29 年度大会講演会 Ⓟ	—	藤沢市	84 巻 12 号 85 巻 1, 4 号
平成 29 年 8 月 31 日～9 月 2 日	農業農村工学サ マーセミナー実行 委員会	サマーセミナー 2017	都市型農業を通してこれからの農業、農業農村工学を考えよう（仮）	神奈川県 内（予定）	85 巻 5 号
平成 29 年 10 月 25, 26 日	京都支部	第 74 回研究発表会 Ⓟ	—	金沢市	85 巻 4, 6 号
平成 29 年 10 月 26, 27 日	中国四国支部	第 72 回支部講演会・第 41 回地方講習会 Ⓟ	—	徳島市	85 巻 5, 6 号
平成 29 年 11 月 1, 2 日	九州沖縄支部	平成 29 年度支部大会 Ⓟ	—	福岡市	85 巻 4 号
平成 29 年 11 月 16, 17 日	農地保全研究部会	第 38 回研究集会 Ⓟ	水田転作と農地保生（案）	福山市ほか	85 巻 5 巻

平成 29 年度農業農村工学会賞の決定について

平成 29 年度の農業農村工学会賞は、平成 29 年 5 月 9 日（火）開催の第 246 回理事会において、学術賞 1 件、研究奨励賞 3 件、優秀論文賞 3 件、優秀報文賞 3 件、優秀技術賞 1 件、優秀技術リポート賞 6 件、著作賞 2 件、教育賞 1 件、環境賞 1 件、歴史・文化賞 1 件、地域貢献賞 1 件、功労賞 2 件、上野賞 2 件、

沢田賞 1 件が、決定いたしました。授与式は、来る 8 月 29 日（火）に藤沢市の日本大学生物資源科学部（湘南キャンパス）で行われます。なお、詳細は本誌 7 月号巻頭平成 29 年度農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

平成 30 年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成 30 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、平成 29 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

平成 30 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
		農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	平成 24 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 5 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成 26 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成 26 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成 28 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 28 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 27 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 24 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人					個人または組織、団体	個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析した業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象期間	平成 19 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 24 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 27 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 24 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 24 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 24 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 27 年 10 月から平成 29 年 9 月までに発表されたものとする。	
賞の対象業績	一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。		本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建築物、維持保全管理活動等も対象とする。				農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成 29 年度末に 65 歳以上に達している個人
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	平成 30 年度農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成 29 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

第 41 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 1 報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めております。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。
詳細は次号でお知らせします。

記

1. 会 期 平成 29 年 8 月 15 日（火）～17 日（木）
2. 場 所 東京国際フォーラム
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会

農業用ダム研究会シンポジウムのプログラムについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村工学会ダム研究委員会では、平成 28 年度に第 7 期研究期間（平成 25～28 年度の 4 年間）を終了したことから、この間の研究成果を広く農業用ダム技術者へ周知するとともに、参加者が抱える各ダムの技術課題の解決に向けた糸口を見出すことを目的に開催します。近年は度重なる豪雨や内陸型地震といった自然災害、2011 年東北地方を襲ったプレート型巨大地震による大災害を契機として、将来的に地震学が予想する巨大地震への対応といった国土の強靱化を必要とする意識が、国全体に高まってきました。また、第 8 期は従来の施設工学、ダム工学の知識に加え、保全管理工学という新たな学問体系を構築する期間になると考えており、第 7 期の成果のとりまとめが重要な位置づけになると考えています。保全管理工学という新たな学問体系の構築にとって大きな契機になることを期待して

います。

1. 日 時 平成 29 年 6 月 23 日（金）10：00～17：30
2. 場 所 東京都港区新橋 5-15-5
交通ビル地下 1 階会議室
3. 参加登録 定員に達したため締め切りました。
4. プログラム
10：00～ 開会挨拶
農業用ダム研究会委員長・京都大学名誉教授 長谷川高士
10：20～17：30 講演
(1) 耐震技術の開発一大規模地震動に対する農業用ダムの挙動解析手法（液状化含む）
10：20 ① フィルダム地震応答解析における地盤の効果と堤体相互作用 京都大学名誉教授 青山威廉

- 10:40 ② ベントナイト系遮水材を用いたアースフィルダム (ため池) の耐震性評価
神戸大学教授 河端俊典
- 11:00 ③ 1g 場および遠心場でのフィルダム振動模型実験による振動特性 東京農工大学教授 向後雄二
- (2) ダムの再開発
- 1) ダム堤体嵩上げ
- 11:20 ④ コンクリートダム嵩上げ工事に伴う温度応力ひずみの計測方法とひびわれ防止対策—ダムコンクリートに埋設されたひずみ計による有効ひずみの算定— 三重大学名誉教授 浅井喜代治
- 2) 地球温暖化適応策
- 11:40 ⑤ ため池の事前放流による洪水軽減に関する研究
神戸大学教授 田中丸治哉
- 12:00 ⑥ 洪水比流量曲線から見た洪水流出の経年的変化
岡山大学教授 近森秀高
- 12:20~13:20 昼食 (休憩)
- (3) 地下ダムの開発—地下ダム開発に係る設計・施工
- 13:20 ⑦ 地下ダムにおける地下水質モニタリングと水質保全管理 農研機構ユニット長 石田 聡
- (4) ダムの保全管理
- 1) 堤体の安定性 (力学的・水理的) の確保と対策
- 13:40 ⑧ 粒子フィルタと弾性波探索シミュレーションによる土構造物内の劣化箇所同定
京都大学教授 村上 章
- 2) 保全管理・運用
- 14:00 ⑨ ダムにおけるコンクリート構造物の機能保全対策に関する研究 島根大学名誉教授 長束 勇
- 14:20 ⑩ 地震観測記録による農業用ダムの地震時挙動の検討 農研機構領域長 増川 晋
- 14:40 ⑪ 土のキャピラリーバリア機能を利用したため池汚染汚泥・廃棄物等の低盛土式保管工法の実装化検討 新潟大学教授 森井俊廣
- 15:00~15:20 (休憩)
- (5) ダムの設計・施工—基礎地盤の強度評価・遮水性の評価
- 15:20 ⑫ 原位置岩盤せん断試験における応力経路と発現強度の解析 岐阜大学准教授 西山竜朗
- (6) 東日本大震災被災ダム
- 15:40 ⑬ ダムの加速度記録から見た実際の振動挙動について 関西大学教授 小林 晃
- 16:00 ⑭ 藤沼ため池の被害調査と耐震性簡易検証手法
東京大学名誉教授 田中忠次
- 16:20 ⑮ 大柿ダムの被災状況と復旧対策
NTC コンサルタンツ (株) 部長 藤井 睦
- 16:40 ⑯ 大切畑ダム (ため池) の被災状況と今後の課題
(株) 三祐コンサルタンツ部長 渡部大輔
- (7) 長谷川委員長 特別講義
- 17:00 最近の地震活動とダムの耐震性評価 (仮)
- 17:30 閉会

「2050 年農業・農村の姿」ポスターの公募について (再)

農業農村工学会では、「君が考える『2050 年の農業・農村の姿』をポスターにしてみませんか」の趣旨のもと、2050 年の農業・農村のイメージを描いたポスターを募集しています。

募集の詳細が決まりましたので、学会ホームページでお知らせしています。応募方法等は学会ホームページをご覧ください。

農業農村工学会ホームページ:

<http://www.jsidre.or.jp/2050-nnposter/>

締 切 2017 年 7 月 3 日 (月) 17 時

応募部門 ①高校生部門

②大学生部門 (大学院生を含む)

③一般部門 (学会員・非学会員を問いません)

賞 金 各部門ごとに

最優秀 FORE 2050 賞 5 万円

優秀 FORE 2050 賞 3 万円

FORE 2050 賞 1 万円

決定方法 学会員が Web から投票 (ID=会員番号) し、研究委員会実行委員会が審議の上で決定。

表 彰 2017 年 8 月 30 日 (水)

農業農村工学会大会講演会会場

(神奈川県藤沢市 日本大学生物資源学部)

会期中会場展示するほか、学会広報に活用。

平成 29 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加者募集 (再)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



JABEE に対する農学関係者の一層の理解と JABEE プログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、農学関係学協会が共同で講習会を開催いたします。多くの皆様の参加を期待しております。奮ってご参加ください。なお、本講習会は JABEE 公認で、講習会の参加修了者は JABEE 審査員候補者

として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。

1. 日 時 平成 29 年 6 月 24 日 (土) 9:45~17:20
(情報交換会 17:20~)

2. 会 場 東京大学フードサイエンス棟 第 1 会議室

- (東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内)
3. 主 催 (公社) 農業農村工学会, (公財) 農学会, (一社) 森林・自然環境技術者教育会, (公社) 日本生物工学会
4. 参加費 3,000 円 (当日, 現金で支払い)
情報交換会費: 2,000 円 (当日, 現金で支払い)
5. 申込先 農業農村工学会事務局 花塚あて
E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp
6. 申込締切 平成 29 年 6 月 14 日 (水)
7. プログラム (案)
- | | | | |
|------------|-----------------------|-------------|-------------------------|
| 9:00~ | 受付開始 | 10:00~10:50 | JABEE 認定制度の考え方と基本方針の説明 |
| 9:45~ 9:50 | オリエンテーション (スケジュールの説明) | 10:50~11:40 | JABEE 認定基準の解説 |
| 9:50~10:00 | 開会の挨拶 | 11:40~12:10 | 社会的背景, 技術士制度との関係説明 (昼食) |
| | | 13:10~14:00 | 認定・審査の手順と方法, 審査手引きの解説 |
| | | 14:00~14:50 | 自己点検書の作成について |
| | | 14:50~15:20 | E ラーニングの方法と活用の説明 (休憩) |
| | | 15:40~16:30 | 実地審査について |
| | | 16:30~17:20 | 質疑応答 |
| | | 17:20~ | 情報交換会 |

サマーセミナー 2017 参加者募集! (再)

— 都市型農業を通してこれからの農業, 農業農村工学を考えよう (仮) —

はじめまして, 農業農村工学サマーセミナー実行委員会です! サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。1997 年から重ねて 18 回目となる今年は, 関東開催であるという利点を活かし, 「都市型農業を通してこれからの農業, 農業農村工学を考えよう」(仮) というテーマを設定しました。セミナーではグループディスカッション, 現地見学や講演会, レクリエーションなど, 参加者のみなさんが楽しんで交流できる企画を考えています。都市圏という一見農業とは縁遠い地で, “農業” とは, “都市型農業” とは何か, みんなで考えてみませんか?

他大学の学生と議論をしてみたい方, 将来のキャリアを見据え人脈を広げたい方, あるいは進路について相談したい方など, どんな方でも大歓迎です。同じ農業農村工学を学ぶものとして, 私たちが実現したい未来について一緒に考えましょう!

1. 主 催

農業農村工学サマーセミナー実行委員会

東海林 光 (宇都宮大学大学院農学研究科)

今出和成 (岡山大学大学院環境生命科学研究科)

崎川和起 ((株) 三祐コンサルタンツ)

福田晃大 (九州大学大学院)

田中宣多 (京都大学大学院農学研究科)

辰野宇大 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

松本宜大 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

樋口慶亮 (東京農工大学大学院連合農学研究科)

小杉重順 (北海道大学大学院農学院)

前田 顕 (宮崎大学農学部)

2. 日 時 2017 年 8 月 31 日 (木) 大会講演会終了後
~ 9 月 2 日 (土) 昼過ぎ

3. 開催地 (予定) 神奈川県内

4. 対 象 学部学生・院生・若手研究者

5. 参加費用 (予定) 10,000 円程度 (宿泊, 飲食代込)

6. 詳細・参加申込み

以下のホームページにて随時公開予定です。

URL: <http://nnsumsemi.wp.xdomain.jp/>

7. 問合せ先

E-mail: n.n.summer.seminar@gmail.com

平成 29 年度「研究グループ」への助成希望者募集について (再)

「研究グループ」の育成を目的とし, 下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度, 3 件以内です。

本年度の申請締切は, 平成 29 年 6 月 30 日 (金) です。助成金を希望される方は期限までに, 所定の様式 (学会ホームページ参照) で研究委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関, 行政, 大学, 民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

- 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上, 「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお, 申請者の資格は, 後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
- 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき, その可否を認定し, 学会長に報告する。
- 助成: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し, 「研究連絡費」を助成する。ただし, その助成は原則として 1 年とする。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
- (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
 - (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
 - (ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する

る機関が2つ以上あること。

- (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1～2ページに収まるようにまとめること。

注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成29年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成29年9月15日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先す

る。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

- (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

- (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成29年9月15日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとな

り、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動

に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット（従来）

（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）

学部生 17,000 円（15,750 円）

大学院生 19,500 円（16,750 円）

②必携3点セット（新設）

（必携＋用語事典＋初年度会費）

学部生 7,000 円（5,750 円）

大学院生 10,000 円（7,250 円）

③2点セット（新設）

（用語事典＋初年度会費）

学部生 5,000 円（3,750 円）

大学院生 8,000 円（5,250 円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 （公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsdre.or.jp

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌6月号掲載の問題は7月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 30 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 30 年発行の学会誌も引き続き皆様からの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで。それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 86 巻（平成 30 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含みます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 春季 平成 29 年 6 月 30 日

夏季 平成 29 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りします。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 86 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 30 年度全国大会会場内でパネル展示します。

8. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 85, 86 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 85 巻第 7 号 関東の農業農村整備 (仮): 大会特集号	公募なし
8 号 いま農業農村工学がおもしろい (仮)	公募なし
9 号 土地改良法改正を問う (仮)	公募終了
10 号 進化する畑作農業 (仮)	平成 29 年 6 月 20 日
11 号 地域・事業コーディネート力を発揮した新たな農業農村の創生 (仮)	平成 29 年 7 月 14 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社) 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

第 85 巻第 10 号テーマ「進化する畑作 (地) 農業」(仮)

わが国の耕地は水田と畑の二つの地目に分化され、水田農業と畑作農業の二重構成になっています。耕地面積 (平成 28 年) は全体で 447.1 万 ha で、このうち畑は 203.9 万 ha です (農林水産省統計部)。

畑作農業は、今後、大規模畑作のさらなる振興、平場の水田利用としては高収益作物への転換、中山間 (傾斜地) においては、果樹、園芸、徳用作物 (桑、茶、タバコ等) などの高品質な輸出作物、和食などに結びついた作物への転換が期待され、米に代わる高収益作物として注目を集めています。また、地域の条件に適した作物や栽培方法が取り入れられ、多種多様な営農のための整備技術が導入されていく可能性があります。

このため、大規模畑作、低平地の水田利用による高収益な畑

作農業および中山間 (傾斜地) や離島などで展開される果樹および園芸などへの基盤となる農地整備、灌漑排水および地域資源の活用を支援する技術について、改良された技術や新技術を紹介することは、会員に対する有益な技術情報の提供となります。

本小特集では、①大規模畑作の最新技術、②高収益作物栽培のための水田の畑作利用技術、③中山間傾斜地、離島など地域特性を生かした畑作などの基盤整備技術、④畑作に関連する地域資源利用、ソフト対策、鳥獣害対策などに取り組まれている地域農業試験場、県整備部門、大学、学会畑地研究部会、民間などの技術者・研究者の方々から、広く報文を募集します。

第 85 巻第 11 号テーマ「地域・事業コーディネート力を発揮した新たな農業農村の創生」(仮)

「新たな土地改良長期計画」や「農業農村整備に関する技術開発計画」の策定に引き続き 5 月 19 日の参議院本会議で「改正土地改良法」が可決、成立しました。こうした農業農村工学の新展開は、農業農村構造の変化や ICT などの新たな情報技術の進歩に合わせて、関連技術の深化と一層の分野拡大、そして、その担い手である農業農村工学技術者の活動領域を広げていくことを社会が求めています。

「農業農村工学」は、「水」と「土」を技術対象の中心に据えて、農業生産性の向上を含む農業や農村の振興のための多種多方面の技術の応用の総合体としての多様性を有しているだけでなく、工学的技術に加えて管理運用技術、関係者の合意形成などの社会的調整技術も必要としているところに、学のアイデンティティがあります。また、関連技術の現地への普及や社会実装の多くは、国および県などの地方公共団体の農業農村整備事業などのプロジェクトを通じて行われます。技術の新展開のも

とでは、水利用や農地利用を媒介にした地域活性化戦略の構築や地方創生に資する地域資源保全活用、ソフト・ハード技術の最適な組合せ技術などの事業プロセスモデルやビジネスモデルを確立していくことが重要です。

本小特集では、農業農村工学技術 (者) の「地域・事業コーディネート力を発揮した新たな農業農村の創生」をテーマに、技術者の潜在能力を発揮した新たな学術の展開方向を示すことを目的として、①地域の「水」と「土」にこだわる農業農村工学技術者の地域・事業コーディネート力による地域活性化の取り組み事例、②地域個性を踏まえたオーダーメイドの技術実装例 (事業の立案・計画から実施までを俯瞰した事業事例)、③多様な技術を統合した農業農村インフラ維持管理のビジネスモデルの発案やそのプロセスなど、新たな技術と事業の発展につながる報文を募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor (20名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2016年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ **Editors** 14カ国から20名
- ・ **Advisory Editing Board** 29名
- ・ **Chief Management Editor**
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
- ・ **Managing Editors**

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),
Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2016年7月から2018年6月まで) :

・ **Dr. Yu-Pin LIN**

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering,
National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,
Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になります。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

第 74 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報）

技術者继续教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成 29 年 10 月 25 日（水）10：00～17：00
（受付開始 9：00～）
- (2) 場所 石川県地場産業振興センター
〒920-8203 石川県金沢市鞍月 2-1
TEL：076-268-2010 FAX：076-268-2859
- (3) 会場までのアクセス
【バス】JR 金沢駅金沢港口（西口 6 番乗り場）から約 20 分、「工業試験場」または「消費生活支援センター」行き「工業試験場」下車

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成 29 年 10 月 25 日（水）
- (2) 会場 ホテル金沢
〒920-0849 石川県金沢市堀川新町 1-1
TEL：076-223-1111 FAX：076-223-1110

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成 29 年 10 月 26 日（木）
- (2) 内容
現地研修会のコース等、内容は決まり次第、農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>）にてお知らせいたします。

4. 研究発表申込み

平成 29 年 6 月末日までに、発表希望者は投稿原稿に先立ち、以下の情報を簡条書きにした電子メールを京都大学・藤澤にご送付ください。①表題（仮題でも可）、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門（水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他）、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。なお、件名を「発表申込み」としてください。

5. 投稿原稿申込み

- (1) 原稿投稿先および期限
平成 29 年 7 月末日までに、研究発表の申込みをされた方は、投稿要領に基づき作成した原稿（PDF もしくは MS ワード）と投稿票（MS エクセル）を、電子メールで京都大学・藤澤までご送付ください。投稿票は、京都支部ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>）よりダウンロードしてください。
※申込みは、電子投稿のみで結構です。受信時に事務局より受信確認メールを返信いたします。
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻
藤澤和謙
E-mail：fujik@kais.kyoto-u.ac.jp

TEL：075-753-6152

(2) 投稿要領

- ・発表者は学会員に限らない。ただし、連名者に少なくとも 1 名は学会員が含まれること。
- ・投稿要領および原稿の書式については、京都支部ホームページ内の「発表申込票（投稿票）と投稿要領」（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>）を参照してください。
- ・原稿の枚数は図面を含めて 2 枚とします。
- ・発表時間は 12 分（質疑応答は 3 分）です。
- ・原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出してください。
- ・発表の補助道具としてパソコン（OS は Windows7、ソフトは PowerPoint）を準備します。
- ・データは CD-R、USB メモリーでご用意ください。

6. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、(株)日本旅行を通じて行います。農業農村工学会ホームページ内の「京都支部研究発表会の開催について」（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>）にアクセスし、「参加申込み」のリンク先から参加申込みをお願いします。

(2) 申込期限 平成 29 年 9 月 1 日（金）

(3) 参加費等

研究発表会 会員 3,000 円 非会員 4,500 円
情報交換会 5,000 円
現地研修会 一般 4,000 円（内昼食代 1,000 円）
学生 1,000 円（内昼食代 1,000 円）

(ア) 昼食

研究発表会の会場周辺では昼食をとる場所が少ないので、弁当 1,000 円/個（税込・お茶付）を事前予約にて受け付けます。ご希望の方は参加申込み時に併せて申込み願います。

(イ) 参加費の納入

申込み後、ホームページの案内に従って振り込みください。振込手数料については振込人負担でお願いします。なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、(株)日本旅行を通じて行います。ご希望の方は参加申込み時に、希望のホテルをお選びいただき、参加申込み時に併せて申込み願います。なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

7. 参加申込み・問合せ先

(株) 日本旅行

「第74回農業農村工学会京都支部研究発表会担当」

担当：田中、野口

〒920-0031 金沢市広岡 3-3-77

JR 金沢駅西第一 NK ビル 2 階

TEL：076-293-6841（代） FAX：076-293-6846

営業時間：平日 9：30～17：30（土日祝日休業）

8. 開催地事務局

石川県農林水産部農業基盤課内

第74回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当：家元、川口、宮井

TEL：076-225-1632 FAX：076-225-1638

E-mail：e211300@pref.ishikawa.lg.jp

sohei@pref.ishikawa.lg.jp

第72回中国四国支部講演会ならびに第41回地方講習会の開催について（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会

開催日：平成29年10月26日（木）

会 場：とくぎんトモニプラザ

〒770-0851 徳島県徳島市徳島町城内 2-1

TEL：088-625-3852 FAX：088-625-3856

2. 情報交換会

開催日：平成29年10月26日（木）

会 場：ホテル千秋閣（予定）

3. 地方講習会

開催日：平成29年10月27日（金）

会 場：とくぎんトモニプラザ

4. 問合せ先

※参加申込窓口と原稿提出窓口を別にしていますので、ご注意ください。

(1) 講演会・情報交換会・講習会申込窓口・問合せ先

徳島県農林水産部農林水産基盤整備局農山漁村振興課
太田・蔵本・立石

〒770-8570 徳島市万代町 1-1

TEL：088-621-2452 FAX：088-621-2859

E-mail：nousangyosonshinkouka@pref.tokushima.jp

(2) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

岡山大学大学院環境生命科学研究科 柴田俊文

〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1

TEL：086-251-8154 FAX：086-251-8881

E-mail：tshibata@cc.okayama-u.ac.jp

5. 講演申込み

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含めて1課題3ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページの支部のペー

ジ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu>) に掲載してある講演原稿の書き方に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票（前記支部のページからダウンロードできます）をメールにより上記の講演申込先までお送りください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。受領確認はメールで返信を行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者（○印）の方は必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助としてプロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。

(4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 参加申込み

講演者は、講演申込みとは別途に参加申込みも行い、必ず参加費を納入してください。なお、参加申込書等詳細は、第3報でお知らせする予定です。

(7) 原稿の締切

平成29年9月8日（金）必着でお願いします。

6. 詳細

講演会・情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌7月号に掲載予定の第3報でお知らせします。